

研究結果報告書

日本におけるサービス付き高齢者向け住宅についての考察

所属： 天津社会科学院日本研究所
役職： 研究員
氏名： 田 香蘭

2018年4月から2019年3月まで「住まいとケア」の視点から日本におけるサービス付き高齢者向け住宅（以下サ高住）について文献研究と現地調査を行いました。文献研究を通じて日本におけるサ高住の基準、法律、補助金・税制・融資などの政策、サ高住の整備状況を把握しました。2018年7月20日から8月2日（2週間）まで、神奈川県横浜市公田町団地、東京都品川区ガーディアン・プレイス旗の台、千葉県千葉市いなげビレッジ虹と風、福岡県大牟田市宮南橋団地、福岡県太宰府市コレクティブハウスアクラスタウンなど五つの地方について現地調査を行い、サ高住入居者状況、サポート体制（生活支援サービス、医療・介護サービス連携）の内容と実施状況について考察しました。2018年5月－6月には天津市における高齢化が進んでいる4箇所のコミュニティーの高齢者住宅を考察し、天津市民政局に報告書の形で日本の示唆点を提案しました。

示唆点：（1）日本では「高齢者住まい法」によってサ高住が創設され、複雑な高齢者向け住まいの体系をシンプルにし、ハード・ソフトの最低基準を設けて質を担保しつつ、補助金や税制優遇、融資による支援措置を実施して、供給促進を図っている。（2）住まいは地域包括ケアシステムの基盤で、市町村が主導して高齢者の居住安定に係る施策との連携に取り組む①在宅医療・介護連携の推進、②認知症施策の推進、③生活支援・介護予防サービスの基盤整備の推進。（3）サ高住の構築で大事なのは①事業開始に至るプロセス、②運営主体の組織化、③持続的運営と財政基盤の確保、④行政による支援などサポート体制、⑤団地を支える多様なサービスの構築である。（4）日本におけるサ高住のモデルは①既存のUR団地に生活支援サービスを提供する活動拠点を設ける。②新たなサ高住を整備する。③普通の賃貸住宅に生活支援サービスをつける。④既存の介護老人福祉施設に生活支援サービスを増加する。

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

1. 「日本におけるサービス付き高齢者向け住宅の建設および中国への示唆点」、田香蘭、2018年度中華日本史年会、2018年6月15日、山東省済南市山東師範大学
2. 「日本における包括ケアシステムとサービス付き高齢者向け住宅の建設」、田香蘭、少子高齢化社会—中日共同対策セミナー、2018年6月9日、中国社会科学院日本研究所

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

1. 「日本における高齢者住宅のソフトとハードに関する建設および中国への示唆点」、田香蘭、『黒竜江社会科学』、2019年第1期
2. 「日本における包括ケアシステムと高齢者住宅建設」、田香蘭、中国社会科学院の「登峰戦略シリーズ」『少子高齢化社会—中日共同対策のプロセスと展望』、2019年4月

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

『日韓高齢者福祉産業研究』、田香蘭、天津社会科学出版社、2019年12月出版予定